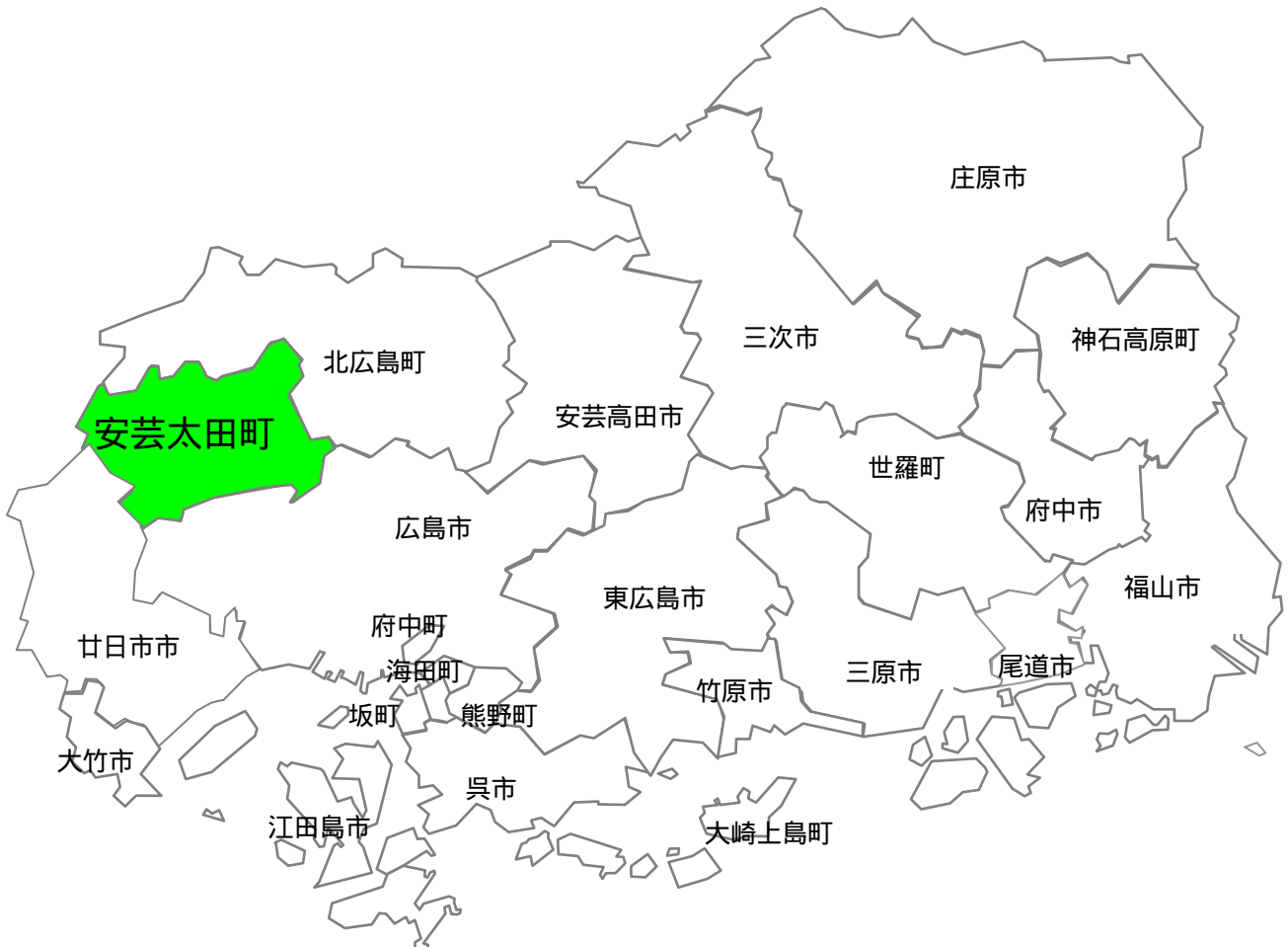


「参加体験型学習プログラムの開発と実践」

モデル事業報告 <2>

「意欲を高める学び」をめざして
～ 人権教育推進のための調査研究事業～

安芸太田町教育委員会



平成 21 年度安芸太田町人権教育推進事業 ～『意欲を高める学び』をめざして～

安芸太田町教育委員会

1 はじめに

(1) 安芸太田町の概要

平成 16 年 10 月 1 日、山県郡内の加計町、筒賀村、戸河内町の 3 町村が合併し、新しい町「安芸太田町」が誕生しました。人口は平成 21 年 12 月末現在 7801 人、総面積は 342.25 k m²、森林面積は町土の 88.3% を占め、耕地及び集落は太田川の本支流沿いに散在しています。

安芸太田町の「安芸」は「安芸の国」を意味し、「太田」は本町を流れる太田川から名をとっています。

本町は、広島県の北西部に位置し、恐羅漢山や三段峡をはじめ、美しい山容を誇る西中国山地国定公園など豊かな自然環境に恵まれた太田川水系地域となっています。町内には国道 186 号、191 号をはじめ、高速交通の玄関口としての中国縦貫自動車道戸河内 IC バスセンターが整備されており、広島都市圏をはじめ島根県を含む周辺地域の交通の要衝となっています。

また、南側は広島市に接しており、広島市中心部から直線距離にして約 30 km、中国縦貫自動車道・広島自動車道・広島高速 4 号線（広島西風新都道路）の利用により、自動車の移動で約 1 時間の圏内にあります。このため、広島都市圏の観光・レクリエーションエリアとして、都市住民との交流が多い地域です。

(2) 人権教育の現状と課題、施策推進状況等

「人権教育及び人権啓発の推進に関する法律（平成 12 年法律第 147 号）」に基づいて策定された国の「人権教育・啓発に関する基本計画（平成 14 年 3 月）」、「広島県人権教育・啓発指針（平成 14 年 5 月）」及び「広島県人権教育推進プラン（平成 14 年 12 月）」・「広島県人権啓発推進プラン（平成 14 年 11 月）」に沿って、本町においても、平成 18 年 3 月、「安芸太田町人権教育・啓発推進指針」を策定しました。

本町教育委員会は、この指針に基づき、人権教育を「町民一人ひとりに人権尊重の精神が育まれることを目的として行われる教育活動」と定義し、人権尊重の理念を正しく理解、体得する学習の推進方策を示す「安芸太田町人権教育・啓発推進プラン」を策定しました。

本町の基本計画は、町民一人ひとりが人権尊重の意識を高め、様々な人権問題を自らの問題として、正しく認識するとともに、日常生活において、お互いに人として尊重し合い、だれもがいきいきと生活できるまちづくりを目標としています。

2 事業計画

(1) 目的

平成 18 年 3 月策定の「安芸太田町人権教育・啓発推進指針」及び平成 20 年 8 月策定の「安芸太田町人権教育・啓発推進プラン」に基づき、町民が人権尊重の意識の高揚に努め、お互いに人として尊重し合い、だれもがいきいきと生活できるまちづくりのため、人権に関する学習機会や指導者研修等を推進する。

(2) 参加対象

自治振興会住民・行政職員・民生委員・児童委員・一般町民

(3) 学習期間・学習時間(回数)

平成 21 年 10 月～平成 21 年 12 月(全 5 回) *講演会 2 回を含む

(4) 学習場所

各地域集会所及び庁舎・社会教育施設等

(5) 学習目標

～意欲を高める学びをめざす～



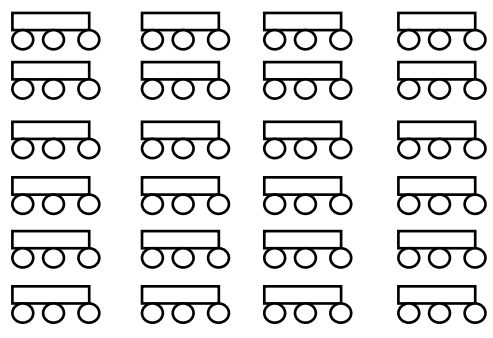
- ア 各地域の実情を踏まえ、15 地区の自治振興会住民を対象とした学習会において、指導者養成研修会(県主催)での学習成果やプログラムを実践し、参加者へのアンケートの分析等をとおして、その検証を行う。
- イ 行政職員、地域における人権教育の推進者等を対象に、参加者の学習意欲を高める参加体験型学習等の新たな学習内容や方法について学習する研修会を計画的に実施し、人権教育の推進者としての力量を高める。


(6) プログラムの展開

回	日時	場所	内容	参加者
1	10月25日(日) 15:00～17:00	安芸太田町 つぼの地区 交流センター	テーマ「人生今が旬」 一人の人間として 人との関わり ポディーパーカッション(参加体験型) 講師：余暇生活開発士 三好 久美子さん	32人
2	11月18日(水) 19:00～21:00	安芸太田町 津浪 正福寺	講演会テーマ「命の不思議」 絵本、ロバートマンチ「ラブユーフォーエバー」から、何代もの命のつながり あなたも私も同じ命 不思議で尊い命 講師：正覚寺住職 清胤 弘英さん	41人
3	12月3日(木) 午前 10:00～ 午後 14:00～	安芸太田町 役場 東館 2 階 会議室	テーマ「人として～地域づくりと私の役割」 アイスブレイク(似顔絵・ジャンケン) 一人の人間として 人との関わり ポディーパーカッション(参加体験型) 講師：余暇生活開発士 三好 久美子さん	76人

4	12月9日(水) 10:00~12:00	安芸太田町 川・森・文化・ 交流センター	テーマ「人として～地域づくりと私の役割」 アイスブレイク(似顔絵・ジャンケン) 一人の人間として 人との関わり ポディーパーカッション(参加体験型) 講師:余暇生活開発士 三好 久美子さん	45人
5	12月12日(土) 14:00~16:00	安芸太田町 川・森・文化・ 交流センター (ホール)	平成21年度人権フェスタ テーマ「介護と人権～老老介護4000日の 軌跡～」 講師:陽 信孝さん (萩金谷天満宮司/山口県歌人協会理事)	150人

3 学習展開(実施状況)

学習目標	視点を变えた発想転換から本当の自立や役割などを学ぶ。		
準備物	A4 白紙 レジュメ	会場図 	講師 
			

流れ	時間	学 習 活 動
導入	15分	<p>1 オリエンテーション</p> <p>(1) 開会挨拶 (2) 講師の紹介 (3) アイスブレイク(頭を柔らかくして考えよう)</p> <p>【似顔絵】 2人ペアで、お互いの似顔絵を1枚の白紙へ自由に書き3分間で完成させる。 *お互いに書きやすくなるよう、座る位置や時間配分等を工夫する。(頭を柔らかくして、相手の気持ちを考える。)</p> <p>【ジャンケン】 2人ペアでジャンケンをする。 *勝つと気分が良いが、負けると気分が悪い。 後出しジャンケンで負ける。 *負ければ良いのに勝ってしまうのは何故なのか。それは勝つ方が良いという習慣から勝ちたい思いが強いため。そのことを知った上で、相手が変わるのではなく、自分が変わっていく。柔らかい頭と心で解決していく。価値観の転換を図る。</p>
		

展開 1	60 分	<p>2 講演 「人生今が旬，人として～地域づくりと私の役割～」</p> <p>【人として】 ○ 一人の人間としての在り方，人との関わりやつながり等集まった時にどのような意識が必要か。 人間の余暇を開発する，余暇とは，余った時間としてではなく一人の人間としての自立としてとらえる。 1日24時間1年365日，毎日関わる数字として，金と時間を数字で表し比較してみる。</p> <p>【お金】 お金は置いておくことも増やすこともできる，目的に応じて，後で使う事もできる。 視点を変えれば，大切な見方ができる。</p> <p>【時間】 時間は置いておくことも増やすこともできず，「減る」方向しかない。 生まれる時は男，女の選択はできず，一人の人間として生まれる。そして自分の寿命を薄々感じることはできても，自分の持ち時間が，どの位あるのということを知る人はいない。 自分の寿命の事も分からず，人の事がわかるはずもないのに平均値で人を見て比較をするなど，我々は日常生活の中で知っているような振りをしている。 一人の人間として生まれてきた，その瞬間から持ち時間は減り始める。残り時間から見ると，今現在が一番若い時である。 人と比較したり平均値でものを見たりしない方がよい。</p> <p>【使いたくない言葉】 「もう遅い」「遅い」という言葉は使いたくない。 「まだ早い」「世話になるのはまだ早い」と言うのは，寿命がいっぱいあるという考えが根底にありはしないか。</p> <p>【今が，旬】 前を向いても，後ろを向いても，時間の減り方は同じ，生きがいのある人生とは何か，人それぞれ違うようだが同じようなことである。 したいという思いは皆同じ，今からどうするかということをよく考え，それを積極的に行っていくことが大切。 寿命は一人ひとりみんな違い，今が一番若い時，今が旬である。</p> <p>【感性】 感性とは知識，技術的なものではない。花など何らかの物体を通して感じることである。喜びに感じられる感性を磨くことが大切である。 感性は自分で磨いていくが，一人で磨くものではない，感性を磨くためには良い仲間の中に身を置くことが大切である。 (悪い仲間は自分も人も傷つく)</p> <p>【自立】 自立とは，自分の事は自分ですることだが，時間とともに出来ないことが増えてくる。そのような中，今，大切なことは，自分のできること，できないことを見極め，知り，できないことは素直に認め，それをまわりにも表現し，気づいてもらうこと。 ここから，新しい関係ができてくる。 (良い仲間の中に居ることが，本当の自立)</p>
------	------	---

<p>展開 2</p>	<p>40 分</p>	<p>3 参加体験型学習の実践 「ボディーパーカッション」</p> <p>参加者が3～4組のグループに分かれ、それぞれの役割を分担し、一つの曲「手拍子の花束」を完成させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 手拍子パターン4回を1サイクルとして次につなげる。 * 手拍子4回たたき終わると次のグループがたたき始める。 <p>1グループ パン・パン・パン・パンパンパン 繰り返し</p> <p>2グループ 休み・パン・休み・パン・休み・パン・休み・パパ 繰り返し</p> <p>3グループ パパン・パパン・パパン・パ 繰り返し</p> <p>4グループ 休み・パパ・休み・パパ・休み・パッパ 繰り返し</p> <ul style="list-style-type: none"> * 往復して手拍子を同じ回数にする。 <ul style="list-style-type: none"> * 4グループ折り返しと1グループ終わりの確認として、腹と膝を叩くリズムを取り入れる。 <p>確認</p> <ul style="list-style-type: none"> * お腹を両手で4回、両膝を交互に8回を2回繰り返し ポン・ポン・ポン・ポン・パタ・パタ・パタ・パタ * 最後に全員で、大きな声で、両手をあげて、ヤー <p>一つの曲として成立させるためには、「決断力」「統率力」「サポート力」をもったリーダーが必要。 リーダーの無言の指揮、合図等は安心につながる良いサポートになる。 達成感が大切、良い思いで終わると次につながる。 他のグループの手拍子をよく聞きながら取り組む（相手の気持ちを考える、相手の立場に立って物事を見る）ことが大切。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;">   </div>
-------------	-------------	--

まとめ	5分	<p>4 ふりかえり (周りの人と感想や気づきをシェアリングする) ・ 頭を柔らかくし発想の転換を図り，視点を変えてみる。 ・ 本当に自立することとは何か。 ・ 地域におけるリーダー的役割。 ・ まちがっても，大丈夫と受け止めてあげる。</p> <p>シェアリング：活動を通じてどんな感想を持ったか，何を感じたかについて話し合い，個人の想いをみんなで確認・共有していく活動 個人の「ふりかえり」と他者との「わかちあい」</p>
-----	----	--

4 事業評価

< 学習者の声 >

改めて自分の置かれている立場やリーダーとしての指揮方法，サポートの概念等について考えることができた。

発想の転換の大切さを学んだ。1つの視点だけでものを見たり，判断したりすることのないようにしなくてはならない。

学んだことを実行する工夫，時間に対する考え方等について，日常業務に活かしていきたい。

講義形式だけでなく，体験しながらだったので，取り組みやすかった。

固定観念にとらわれず，柔軟性のある意識をもつことが大切。

「もう遅い」と口癖になっていたかもしれない。今後は使わないようにし，地域に帰っても，今できることを自分なりにサポートしていきたい。

素直にできないことを表現することは必要であり，恥ではない。大変勉強になった。

○感性は一人では磨けない。仲間が自分の感性を磨くのを手伝ってくれる。この点に初めて気づくことができた。

「悪い終わり方をすると次回が難しい」ことは教訓になった。

潤滑油としての役割の大切さと楽しさ，少し視点をかえて考えて見ることの重要性を再認識した。

これまでの研修と異なり，とても興味深く聞くことができた，「いろいろな角度からものごとを見ること，また，みんな違ってみんな良い」ということを日々意識したいと思った。

地域の中でと言う前に，家庭の中から，少しずつ実践して行けることがあり，子育てにも生かせそうだと思った。残り時間を有意義に過ごしたいと思う。

「実践には努力が必要」ということがとても心に残った，自分の持ち時間を大切にしたい。

「限りある時間のうち今が一番若い」という言葉にはっとさせられた。

講話を聞くだけでなく，体を動かし，楽しく学習できた。「引っ張るだけがリーダーではない」ということを聞き，気が楽になった。

終日の職員研修は時間的に非常に厳しい。2日間に分けて実施する等工夫してほしい。

さらに人権教育に踏み込んだ内容の話も聞きたい気がする。

5 成果と課題

【成果】

地域の自治振興会住民を対象とした学習会は、地域の実情を踏まえ、講演会及び参加体験型学習形式により実施した。参加者の中には、「いつも義務感で参加していたが、その姿勢を恥ずかしく感じた。このような研修会はいつまでもあってほしい。」とアンケートに回答された方があった。学習会の満足度においても9割の方が「大変よかった。」「よかった。」と感じておられ、町村合併後あまり実施していなかった地域の人権教育の推進に役立つものとする。

各地域でのリーダー的役割の大きい民生委員、児童委員や地域担当制を踏まえた行政職員を対象にした参加体験型の研修会を実施したことで、これまでの研修のイメージが変わり、参加者にとって参加しやすい内容となった。「意欲を高める学びをめざす」という目標からも、企画側・参加側ともに今後につながる意識変容を図ることができた。

人権フェスタは、これまで、行政や社会福祉協議会が主催していたが、共催として各種13団体に参加していただき、人権イベントの連携や交流を深めあい、これまで以上の参加が得られた。

【課題】

1年目の取組として、成果は感じるが、地域人権教育支援においては、15自治振興会を予定とする中で、現在、2会場の実施となっている。今後は、参加者の声等をPRし、実施地域の拡大を図る必要がある。

行政職員研修においても、1回だけの実施では、地域での指導的な役割となる力量を身につけるには不十分であるので、企画段階での研修日程、研修内容の検討等行うことが、次年度への課題である。

また、事業内容をより効果的なものにしていくために、具体的な目標数値等を設定し、それに対する検証を行うなどの取組が必要である。

子育て世代や若い人たちの参加が少ないという現状もあるので、いろいろな場や様々な機会での研修についても考えていきたい。

